

日刊 動労千葉

79.9.13
No. 223

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八〇九(公衆電話三三二)七二〇七

「すかりつく裏切り集団」

「当局本部」暴力集団

八月三十一日、津田沼電車区においてピラはがしに抗議した動労千葉組合員をピットに突き落とし、九月三日、退区途中の国労組合員をとりかこみ、ひとり一人の顔写真を無差別にとりまくるといふ、動労「本部」反動集団の思いついた行為に対し職場からの糾弾の嵐が浴びせられた。これに消耗した「本部」反動集団は九月四日以降は、庁舎内にも一歩も入れず、当局の庇護のもとにひねもす一日、電車区構内中庭でスポーツ新聞を読みふけり、ある者は枕木の脇で惰眠をむさぼるといふ、まさにダレ切った姿をさらけだしている。「オルグ」団責任者の塩谷・藤井某などは、職場の労働者の怒りを恐れてか、動労千葉組合員がサークル活動やダイヤ検討会等、各種会議で集まる度毎に区長室に飛び込み、「今日はなにかあるのか」と当局におうかがいをたて、あげくに「〇〇は勤務時間中だ、職場管理をしっかりとやれ」と申し入れ、動労千葉への弾圧・職場慣行の破壊を要求し「当局の親衛隊」ぶりを発揮しているのである。本号ではあらためて「本部」反動集団の腐敗しきった実態を明らかにする。

「当局は島田の自宅を防衛しろ」
(藤井・塩谷某)

九月七日、藤井、塩谷某にひきいられた「防衛」隊一九名が津田沼に押しかけてきた。何やら興奮した藤井、塩谷某は、区長室に入るなり「島田の自宅にピラがはられた。当局は責任をもって島田の家を防衛しろ」と大声で申し入れたのである。鉄労ならともかく、どこの労働組合が当局・資本に家庭まで防衛しろ等と泣きつくのであろうか。これでは当局の管理体制強化を要求するばかりか、組合員の家庭まで管理せよということと同じではないか。

ジョニコロ三本で組織介入の詫び料(!?)
国労分会直ちにつつかえす!

九月三日、血迷った「本部」反動集団は、退区途中の国労津田沼電車区分会組合員をとりかこみひとり一人の顔写真を無差別にとるといふ組織介入の暴挙を行った。九月五日、国労分会の強い抗議にこの重大性に気づいた「本部」反動集団は、謝罪したまでではよいが、これを機会に国労を味方にひきよせようと「本部」反動集団お得意の「飲ませ食わせ」の路線に従って、分会事務所ジョニコロ三本をソーッと届けたのである。しかしこ

れも所詮、浅知恵であり、反動裏切り分子ならともかく国労組合員に通用するはずはないのである。国労分会役員は、直ちに「侮辱するのもしいかげんにしろ」とジョニコロ三本を動労千葉組合員の眼前で突きかえしたのである。

「本部」反動集団とその手
先島田らを徹底追及せよ!

この間の「本部オルグ団」の言動は彼らの本性をあますところなく自己暴露している。いわく、「職場規律を厳正にしろ」「ピラを貼らせるな」「3・8を適用しろ」等々枚挙にいとまがない。もはや動労「本部」反動集団は労働組合とは名ばかりの「当局の親衛隊」||「第二労働課」である。この「本部」反動集団の手先、動労千葉組織破壊の尖兵島田を徹底糾弾せよ。

二期工事着工実力阻止
「ジェット」燃料増送阻止
9.16 見物大集合
正午 オート公園
動労千葉独自集会
●10時半●成田運転区前



彫刻家金城実氏があの沖繩戦をテーマとして沖繩人の差別と抑圧に対する怨念と怒りを刻みこんで作り上げた巨大壁画彫刻「戦争と人間」の移動展が各地で開催されています。

9.18 沖繩を考えると 映画・講演・彫刻展

ど急激な反動化の強まりの中で、沖

千葉県においても動労千葉、三里塚・芝山連合空港反対同盟、部落解放同盟千葉県連など各団体が参加して実行委員会を結成し、来る九月一八日「彫刻展」に参加しよう!

金城実・「戦争と人間」移動彫刻展
とき 9月18日 12時～21時
ところ 千葉中央公園
沖繩を考えると、映画・講演集会
とき 9月18日 18時～
ところ 千葉県教育会館 2F
映画 「久米島の虐殺」
講演 関川 幸氏 北原 欽治氏 古波津英興氏